「私たちが住みたいスマートシティってどんなまち？」
ワークショップ発表記録

（１）日時および場所　※同じプログラムを 2 回開催
日時：①令和 3 年 11 月 20 日（土）13 時～16 時 30 分
②令和 3 年 11 月 21 日（日）13 時～16 時 30 分
場所：三田市役所本庁舎 3 階 302 会議室

（２）参加者数
①11 月 20 日（土曜日）　21 名
②11 月 21 日（日曜日）　21 名
③ライブ配信参加者　　12 名

（３）ワークショップでの発表事項
「デジタル技術やデータ活用で理想のまちを考えよう」（発表順）

11 月 20 日第 4 班（チーム名：ペンタ）

子どもが希望を持てるまち、Evidence Based Hope ということを考えました。色々な情報を一元管理することで、ホームページで自分に関係のある情報だけが表示されるようになれば、ホームページを見るようになります。

それらの情報の中に健康データを取り込みます。母子健康手帳などを利用して、生まれる前からの自分の情報を含め、健康のための情報を自分自身が見ることができる仕組みです。医者に行かなくても、自分の医療情報を自分自身が確認できるようになると良いのではないでしょうか。
さらに、ビッグデータで三田市全体の傾向が見て、子供たちの健康をサポートすることが出来れば、若い世代が三田市に来ると思います。

ビッグデータを個人個人に還元できる仕組みがスマートシティでは大事だと考えます。

また、三田市に新しい人が入って来てもらうためには教育も大切です。子どもたちのプロファイルを管理して、学校教育ではカバーできない範囲を、お年寄りや専門家がサポートする仕組みも出来るのではないでしょうか。三田市は良い教育をしているということで、若い人の転入も増え、お年寄りの経験も生かすことが可能です。

講師講評：
個人がデータを取られるばかりで、何に使われているか分からなくて、カナダ

のトロントのスマートシティは失敗しました。スマートシティで収集したデータが、自分のためになるというのは、非常に良いポイントだと思います。

11月20日第2班

「フラワータウン2.0」

三田市の中でフラワータウンは一番初めのニュータウンであるため、昨今は空家問題や高齢者問題といった課題がリアルに出ています。まずそこに取り組むべきと考えました。世代を超えて住みたい街へを目指します。

高齢者問題というのは、高齢者が元気でないのが問題であって、高齢者が元気で活動できるのであれば問題ではありません。

そこで、高齢者の元気・空家問題・若者の活躍の場という三点を考えました。

①高齢者が元気に活動するということは、元気に移動するということ。

②多世代の交流や協議の場を作って、全ての世代がwin-winとなるように。

③その中で高齢者の見守りも考える。

フラワータウンの交通を再設計し、フラワータウン版MaaS（Mobility as a Service）を作ろうと考えました。そこには、親しみが持てる自動運転バスを走らせたいと思います。他の地域で実際にファンクラブが出来るようなバスがあります。高齢者や子連れのお母さんが利用しやすいよう運行し、運営は若い世代が行います。

その事業を見守り・サポート・ヘルプの組織に広げていき、それが若者の活躍の場、やりがいにつなげていけるのではないでしょうか。高齢者の移動の情報をAIで分析し、あまり活動できていない人にはサポートできるようなことも考えます。高齢者の方が利用しやすいように、テレビを使って操作したり案内を見たりできるようにすることを考えました。

フラワータウンはモデルケースであり、将来は他のエリアにも広げられるのではないでしょうか。

11月20日第1班（チーム名：おちけんチーム）

「若者と三田市民が交流できるポータルサイト」

三田市には若者が遊べる場所が少ないという課題について考えました。遊ぶ場所が少ないということは、学生が時間をつぶせる場所・いきいきできる場所があまり無いということです。

その原因として、学生に三田市の情報があまり伝わっていないのではないかということが考えられます。三田の情報を知りたいとき、誰に聞けばいいか分からないことがあります。学生はSNSはよく見ますが、市の広報物はあまり見ることがありません。

様々な情報を一元管理することが出来れば、もっと情報を広く伝えられると考えます。例えば、三田市の広報誌は紙の媒体で配布されていますが、それがデータで扱えれば、若者がよく利用する SNS でも扱うことが可能です。それがきっかけでコミュニケーションが広がるのではないでしょうか。

市民向け情報のポータルサイトと学生向け情報のポータルサイトが連携して、若者が遊ぶ場所の情報や働く場所の情報が得られるような仕組みを考えました。

講師講評：

仕組み自体は掲示板を作るということなどで実現可能と考えますので、すぐに構築することも出来るのではないでしょうか。

11 月 20 日第 3 班（チーム名：いけいけ）

課題は、病院の待ち時間の長さを何とかしたいということを考えました。病院で 1,2 時間待つのは非常に大変です。その待ち時間に利用してもらうために、病院で iPad を貸出して使ってもらう仕組みです。

病院としても、ただ iPad を購入して提供するのは難しいと考えますので、例えば医療デバイスの機器のメーカーと連携し、同意がある人のデータが提供できたり、画面に保険サービスの CM が流れて、それを 30 秒見ると使えるなどといったことで、うまく導入して、それを利用して待ち時間を可視化することが出来るのではないかと考えました。

講師講評：

待ち時間の可視化という点を考えると、病院の診療システムから待ち時間のデータを連携するということも出来るかもしれません。

講師より 11 月 20 日のまとめ

非常に白熱した議論が行われ、また良いアイデアが出たと思います。このワークショップでは、参加者のみなさんが市民の目線で考えた、ということが良い点です。自分自身の住んでいるまちのことを考えて、こうあったらいいなという観点、目的志向で議論することが非常に大事です。スマートシティはそこに住む市民や、そこの産業のために行うことであるからです。

技術先行でサービスを導入するという考え方もありますが、それらは実装されたら市民の税金を使うものです。そういったサービスをお金を払っても使うのだろうかというシビアな考え方も必要です。

各班のアイデアを全部やろうとすると 3 年以上もかかるでしょう。スマートシティの取り組みでは、出来る部分から小さくスタートしていきます。機能とし

ては小さくて動くものを作ります。開発に期間をかけている間に、世の中のことも変わってしまいますので、まずは迅速にやることを小さくやるということで、アジャイル開発という考え方です。
　今回のワークショップはこれで終わりではありませんし、今回のアイデアをさんだ里山スマートシティの中に一部でも取り入れていきたいと考えています。

・企業が考えつかないところで、参加者の方から様々なご意見が出てくることがとても参考になりました。
・私は三田市の住民なので、全て共感できるものでした。このワークショップはこれで終わりではなく、こういったアイデアを三田市の計画の中にどう落とし込んでいくかということを三田市の職員と議論していきたいと考えています。
・こんなに白熱したワークショップに参加したのは初めてです。みなさんがどれだけ三田市のことを考えているかということを強く感じました。このようなボトムアップ的な地域づくりが大切です。

11月21日第1班（チーム名：スライム）

「さんだメタバースシティ構想」

　若者が三田市から流出しているという課題に対応するために考えました。若者満足度・ニーズ・行動動態といった情報を、Webのビッグデータで把握したうえで、若者のニーズを満たしていきます。

　その手法として仮想空間の中に三田市の魅力を体験できる仕組みを作って、そこに訪問してもらうということを考えました。若者に、仮想空間で三田市に来てもらい、その中には案内所の機能を持たせて置き、三田市についての欲しい情報が得られるようにしておきます。三田の自然や里山も含めて魅力の発信が出来るように作ります。実際に三田で過ごしたらどういう生活が出来るのか、就業体験や、人との出会い、結婚、子育てまでが体験できるようなバーチャルの世界を作ることで、三田の魅力を仮想空間で知ってもらい、最終的にはバーチャルからリアルの移住へとつなげるという構想です。

講師講評：物を作る代わりにシミュレーションで仮想的に作るということは非常に良いアイデアだと思います。そこに事業者も誘致して、スポンサー料を出してもらうようなことも出来て、それが実際の店舗も訪れるようなことになれば面白いです。

11月21日第4班（チーム名：5:10）

「この指と～まれ」

　三田には楽しいことがたくさんあるのに、それを知る機会が無いのではないかというところを課題として考えました。三田特有の楽しいことがあるのに、分野別の情報提供が出来ていないということです。

　自分の興味・関心ごとのある人が一緒に楽しんでいける仕組みを考えました。三田に住んでいたら自分の興味や関心ごとを一緒に楽しんでくれる人がどんどん増えるようになれば、みんながハッピーになれるというビジョンを描きました。

　プラットフォームとして、自分の興味があるアクティビティを入力できるサイトやアプリをまず作ります。そこに「いいねボタン」「やったねボタン」というものを作ります。三田の知っていること、場所、お店など、登録した事柄に対して、共感する人は「いいねボタン」、実際にそこに行ってみた人は「やったねボタン」を押してもらいます。共感者がどれだけいるのか、それを見て行動した人がどれだけいるのかをデータで可視化する仕組みです。これによって、同じ趣味や境遇を持つ仲間を見つけ、共感し、つながり、リアルでも交流することが出

来ます。

講師講評：プラットフォームに登録された店舗などの活性化にもつながる良いアイデアだと思います。

11 月 21 日第 3 班（チーム名：桃太郎）

「さんだスマート交通システム」

　バスなどの本数が少ない、料金が高いといった交通の課題について考えました。

　各自のスマホ活用するなどの方法で利用者の移動ニーズをもとに、AI で分析し、配車を行っていくシステムです。こういったシステムは、人が多いニュータウンにはメリットがあり、安く提供できると考えられますが、一番大事なのは人が少ない地域にどう対応できるかということです。

　小型のバス運行、有償の個人運送のボランティアや、安全な車をカーシェアする仕組みなども考えました。高齢者になって免許証を返納する場合にも対応できるようにする必要があります。いつでもどこでもいけるサービスを提供したいと思います。

　利用者が少ないところにも、こういったシステムを浸透させるための工夫を市も協力して、ライフラインを整えていく観点で取り組むことが大事だと考えます。

講師講評：ソーシャルインクルージョンで誰も取り残さない、取りこぼさないという考え方が出ていました。カーシェアやライドシェアということも実現可能ですので、ぜひ実現すると良いと思います。

11 月 21 日第 2 班（チーム名：がちゃぽん）

「さんだスマート医療システム」

　必要な人に早く安く安全に医療を提供できること。高齢化によって多くの患者が病院に来られるが、待ち時間を減らせないだろうかという課題を考えました。

　スマホの自己申告やスマートウォッチを利用して、客観的に状態を把握することが可能です。AI が問診をして医師の代わりに診断してスマートな行動を提案してくれます。必要な人には、オンライン診療を提供し、緊急事態では自動的に救急車を呼ぶような仕組みも考えました。それぞれの患者の状態に応じて適切な行動をサポートしてくれます。

　AI が通院が必要な人、投薬が必要な人、そうでない人を分けて、必要に応じ

て病院の予約もしてくれます。通院にあたっては送迎をしてくれるのですが、その移動は3班の「スマート交通システム」で出来るので、玄関に立ったら車が来てくれて待ち時間も無く、医師の診療を受けられます。必要な薬はドローンで配送もしてくれ、病院には本当に必要な人だけが行くようになっています。必要な人に、必要な時に、必要な医療を届けます。

講師講評：

普段から状態を見守って、必要な人に医療を届けるという仕組みです。最後の発表ですので、他のチームのアイデアをつなげていて、素晴らしいアイデアだと思う。

11月21日ライブ配信（チーム名：いまふー（今風））

交通の問題について議論をしました。移動手段をの解決について考えることもできますが逆転の発想で、目的の施設を利用しやすい場所に移すというコンパクトシティーのような考え方もあるのではないでしょうか。どこに住んでいる誰がどういう用事でどこに行っているかといったデータを分析することで、コンパクトシティーで施設を集約する場合も、納得感を高めることが必要と考えました。また、自転車の活用や地域の連携・つながりで解決する課題もあるのではないでしょうか。

講師より11月21日のまとめ

今日のアイデアで出たサービスを全て三田市でやることが出来たら、三田市がすごく魅力的になると思います。技術ベースではなく、スタートはみなさんの課題で考えているので、とても実現性が高いものです。

今回のワークショップは 100 点満点です。それは、三田に住んでいる皆さんならではの三田愛にあふれるアイデアが出たからです。地域の課題をどう解決するかという、目的志向でやるのが大事なところです。また、男性、女性、年代も様々、多様な人が集まって議論するのが大事です。みなさんの住みたいと思うまちが描けたでしょうか。

2班
4班